

“マリアッチ・アガベ”
メキシコ選手団受け入れ機運醸成に貢献
～マツダスタジアムで君が代斉唱～

当親善協会では、昨年が続いてマリアッチ・アガベを広島に招聘しました。特に今回は会員に対してメキシコ音楽を紹介する機会ばかりでなく、すでに今年の４月から始まった東京五輪に向けての広島県内におけるメキシコ選手団事前合宿受け入れの機運醸成につながるような活動を展開するためです。



上段 左から アルマンドさん、カルロスさん、ヘススさん

下段 左から マルティンさん、パブロさん、アルベルトさん

マリアッチ・アガベは、マリッチ発祥の地と言われるメキシコの中央高原、ハリスコ州グアダラハラ市において、1986年に結成されたベテランのマリアッチです。メキシコでは、マリアッチのおおらかで陽気な演奏とパフォーマンスはお祝いの席には欠かせません。マリアッチ・アガベは20数年にわたり、毎年9月にメキシコ独立記念日を祝うお祭りとして東京お台場と大阪梅田で開催される“フィエスタ・メヒカーナ”に出演のため来日しています。



リハーサル中のマリアッチ・アガベ

それらの開催に合わせて、9月11日（火）から13日（木）の期間、6名のメンバーが来広し、9月11日（火）には、マツダスタジアムでの広島東洋カープ 対 横浜DeNAベイスターズ戦において、君が代を斉唱することになりました。

事前に母国において、君が代斉唱の練習を重ね、当日の昼間には観客に最高のパフォーマンスを届けられるようリハーサルを行い、本番に臨みました。



君が代斉唱前、スライリーと記念撮影



君が代斉唱を担当したアルベルトさんとメンバー

試合開始15分前、グラウンドの外野センター付近の芝生の上で、メキシコで最もポピュラーな曲である「シエリト・リンド」を披露し、予めホームベース付近で待機していたメンバーのアルベルトさんによる君が代斉唱が始まると、スタジアム内は静まり、声量のある歌声のアルベルトさんが歌い終わり、メンバー全員が一礼すると、どよめきと大歓声がスタジアム内を包みました。



パーティフロアでの演奏

この後、廿日市市で合宿中であったメキシコの空手選手による始球式が行われ、見事ノーバウンドでキャッチャーミットに納まり、これもまたスタジアム内を沸かせました。

試合開始後、マリアッチ・アガベは、スタジアム内のアウトドアデッキやパーティフロア10箇所程回り、観戦中のお客様もマリアッチ・アガベの演奏に盛り上がっていました。

翌日9月12日（水）は、11時から30分間、広島市南区皆実町のゆめタウン広島1階ウエストコートに設置された特設ステージにおいて、お買い物中のお客様など約100名が集まる中、演奏いたしました。



ゆめタウン広島のステージで演奏するマリアッチ・アガベ

午後からはRCC中国放送へと移動し、ラジオ番組「おひる一な」のゲストコーナー「おひルーム」に出演、続いてテレビの情報番組「イマなまっ！」では、「イマ広島で静かに熱を帯びるメキシコ」というテーマで特集が組まれ、マリアッチ・アガベも登場しました。



RCCラジオ「おひる一な」スタジオ内での記念撮影

18時から、広島市中区紙屋町の地下街シャレオ中央広場にある広島ホームテレビのぼるぼるスタジオでのインターネットテレビ「ひろしま県民LIVE」に出演し、「がんばろう広島 災害義援金募集コンサート」としても協力いたしました。



広島ホームテレビ ぼるぼるスタジオ「ひろしま県民LIVE」に出演中

マリアッチ・アガベは、この後１２日（水）最後の演奏として当親善協会主催の「２０１８ “マリアッチ・アガベ” の演奏と食事を楽しむ会」に出演し、１３日（木）のお昼には、次のステージである名古屋へと向かいました。



お揃いのカープTシャツを着て縮景園を散策

広島におけるマリアッチ・アガベの演奏やパフォーマンスは、多くの人々を魅了し、そして当親善協会も推し進める２０２０東京五輪に向けてメキシコ選手団を広島にお迎えするための機運醸成活動においても、多くの広島県民にメキシコのことを知ってもらう機会を提供することができました。